



第26号

# ハクセイ HAIKEI SHINBUN

発行日 平成15年1月1日  
発行 社会福祉法人 和敬会  
〒441-1318 愛知県新城市  
八束郷字天王1032番地2  
TEL (0536)2-0760

## 原点をみつめる

社会法人和敬会 理事長 太田一平

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、日本中を熱くさせたサッカーワールドカップの日韓同時開催でおおいに盛り上がった一年でありましたが、そんなお祭りの後に残されたのは経済の先行きの見えない混沌状態であり、その影響から社会福祉の分野においても社会保障制度などの変革が余儀なくされています。

児童分野においては、少子化と並び児童虐待が今年も大きな社会問題となつており、児童虐待防止法が施行されて二年経つても虐待相談件数は、二万三千二百七十四件と一向に減る様子はありません。

老人福祉分野においては、介護保険制度施行以来初の見直しとなる介護報酬の改定論議が本格化し、結論は本年に持ち越されましたが、総額の抑制、施設報酬削減と在宅報酬アップ、訪問介護の二種類型などの方向性が示され、その一方で要介護認定方法も見直されることとなっています。そんな中、今年は社会福祉法人和敬会が、創立50周年の節目を迎える年であります。

戦後間もない昭和28年10月24日新城の地に

おいて産声を上げたこの社会福祉法人和敬会が、当時五名の戦災孤児を引き受け養育をするという福事業を始め早や50年、半世紀の歳月が経過しました。私達は誰もが限られた生を生きていますが、ちょうど50年という時の流れの節目に立つ者として、50年という歳月を振り返りたいと思います。誰にも歴史があるように和敬会の歴史の流れに立つときその歴史の原点を見ることなく先を見据えることは出来ません。そのためにも創設者太田順一郎の描いた理念の原点をみつめながら満身創痍つき進んで行かなければならぬと考えます。昨年12月15日の理事会並びに評議員会において、理事長を拝命し新たなる決意の元に、社会福祉法人和敬会が經營します児童養護施設八景児童園と特別養護老人ホームまどかの郷が、共に地域福祉の推進役として社会貢献して参りますことをお誓い申し上げ、皆様方のご健康とご力をお願い申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

去る12月15日(日)まどかの郷において、任期満了に伴う理事会評議員会が開催されました。その結果、次の理事7名監事2名評議員16名の方々が選任されました。理事の中から互選により理事長に太田一平氏が選任されました。

(任期は平成14年12月20日から平成16年12月19日まで)

## 理事・評議員改選

理事長・評議員 太田一平 (47)  
常務理事・評議員 片桐昭雄 (72)

理事・評議員 太田二郎 (47)  
理事・評議員 水谷清 (79)

理事・評議員 戸松新暁 (57)  
理事・評議員 水谷政義 (65)

理事・評議員 伊野一彦 (71)  
理事・評議員 春日井正雄 (71)

監事 中居文子 (68)  
監事 名倉玲子 (56)

監事 田村幹洋 (61)  
監事 松崎和夫 (72)

評議員 鈴木庄一 (64)  
評議員 本多克弘 (64)

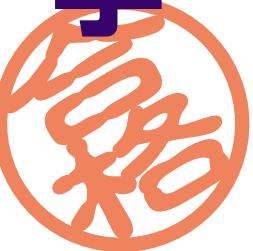
評議員 加藤匡博 (72)  
評議員 石田正人 (72)

評議員 平松匡二 (52)  
評議員 隆博 (62)  
評議員 佐藤匡博 (72)  
評議員 田中匡二 (64)  
評議員 佐藤匡博 (64)  
評議員 佐藤匡博 (64)

評議員 佐藤匡博 (64)  
評議員 佐藤匡博 (64)

M君

# 日本福祉大学



## 私の原点・・・

### 福祉の道を選んだわけ

鳥の家担当 松沢未知



先日嬉しい知らせが入ってきた。グループホームの高校3年生のM君が日本福祉大学に合格したのだ。

M君はあとと就職を考えていたが高校2年生の時に友人が将来、福祉の道に進みたいと聞き、「俺も将来、

福祉の道に進んで子どもと関わりを持ちたい。そして子どもの気持ちを理解して今までもりた愛情を

その子どもたちに注ぎたい」と進路を変更した。それからのM君は大好きだった部活も我慢して、アルバイトと勉強に励んだ。そんなM君をみて担当のお姉さんやお兄さんもこうして勉強したりとM君の心の支えとなつた。そして合格発表の日、一枚の封筒がM君の元に届いた。M君は勇気を振り絞つて恐る恐る封筒を開封した。その顔は、たちまち笑顔に変わり右手の拳が勢いよく上がった。見事『合格』の二文字が書かれていた。M君は笑いながら「まあ俺の実力かな」と語ったあと「やっぱり周りの力が大きかった。お姉さん、お兄さんがないなかつた今の俺はなかつたと思つ。大きなパワーをもらつた」と頭を深々とさげた。

「M君が大きなパワーをもらつたと感じたように私たちもM君のよつな頑張りや日々の成長から大きなパワーをもらつてしまふんだよ。本当におめでとう。これからM君が活躍する姿を楽しみにしてるね。」とだしきつてお姉さんは語つた。



「M君が大きなパワーをもらつたと感じたように私たちもM君のよつな頑張りや日々の成長から大きなパワーをもらつてしまふんだよ。本当におめでとう。これからM君が活躍する姿を楽しみにしてるね。」とだしきつてお姉さんは語つた。

私が児童養護施設を希望したのは、私にとって人と関わることが一番のエネルギー源であるところからです。人と同じく関わっている時の自分が最も自分らしくいられることを感じ、子供達の成長していく過程を見続けることができたらとうつ思つがありました。そんな思いが満たされるのではなくかと思えたのが児童養護施設だったのです。

ハ楽は私の大好きな自然に囲まれており、小舎制のため子供達と関わる場が自分の生活の場でもあるところとが私にとっては喜びでした。今は、子供達と一緒に生活することとで、楽しく幸せな気持ちでいられる感じを実感しています。



陽の家での初めて七五三。幼稚園児のYちゃん△ちゃん。小学生のJ君の君が近くの神社へ行き七五三参りをした。いつもとは違う服装でビシッと決めて引き締まった顔つきでお参りをした。

七五三是、室町時代から行われていた三歳の髪置き、五歳の袴着、七歳の帯解の行事を、ひとまとめにした行事で、三歳の髪置きは、それまで剃っていた髪を長く伸ばして、唐子あげを結う男女の式をいい、袴着は、五歳になった子供が初めて袴をはく式をいう。平安時代は女子も袴をはいていたため、男女ともこの儀式を行っていましたが、やがて女子の服装の変化とともに男子だけの儀式となり七歳の帯解は女の子の祝いで、それまで帯のかわりをしていた付け紐を取り、初めて帯を結ぶ儀式であった。このような三つの行事がこれらの年齢に行われたのは、中国で七五三といった奇数年が縁起がよいとされたいわれから来ている。それぞれの年齢に応じてスタイルを変えていく七五三是、幼児から子供へと成長していく過程における節目をあらわしていると記されている。

陽の家の担当の栗原お姉さんは担当している子どもたちに対して「私が抱えてる子むかたちはみんなそれぞれ心に深い傷を持っているが、陽の家の生活を通してその傷が少しでも和らいで、男の子はたくましく、女の子は優しさを育んでほしい」と語る。子どもが成長していく過程をしつかり見届ける大切さを七五三から改めて実感できたと感じる。



## 八楽児童寮オリジナル



### 八楽Tシャツ完成！

八楽のマスコットであるおっとり君を取り入れた八楽Tシャツが完成した。きっかけは第42回東三河児童福祉施設総合体育大会での八楽児童寮のチームカラーを今年、茶色から赤に新規一転させたことだった。まだ記憶に新しい日韓合同開催のサッカーワールドカップ杯において韓国の国を上げての赤色軍団の一致団結の応援のすごさが脳裏に焼き付いているが、その再現をと八楽児童寮も赤一色のTシャツをそろえて総合体育大会にのぞんだ。総合体育大会は、総合5位という結果であったが、Tシャツのおかげで八楽児童寮のナショナリズムは燃えた。



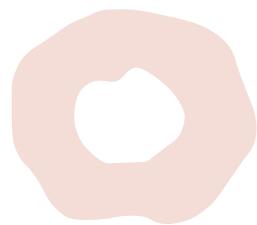
アシヤツ 完成!!



▲職員で構成された音楽俱楽部 雅の演奏会。皆さんが聞き惚れてくれました。



▲まどかの郷での7年目の新たな年がスタートしました。玄関には、立派な門松が飾されました。



## まどかの郷

まどかの郷恒例の温かい鍋を囲んでの大忘年会が12月13日ふれあいホールで開催されました。忘年会の最大の呼び物はふれあいホールの壁面を大型スクリーンにみたてて「ゆく年くる年この1年名場面集」と題してスライド上映会を行うことでした。ここに忘年会で上映された平成14年の思い出のシーン(記念写真)をご披露します。



▲ケアハウスでは紫陽花見物に出かけました。幸田は紫陽花の名所が以外に多いんですよ。今度、紹介しますね。



▼桜咲く季節に心が躍り、花見に出かけました。日本人によかった!日本の四季に心が酔いしれる4月でした。



◀今年も行われた七夕コンクール。ふれあいホールに大きな笹が飾られ皆さんの願いが書かれた短冊が、色とりどりにとても風情がありました。



7

24 □ 7A

▲敬老の日には「津軽三味線の世界」と題して生演奏会を開催しました。迫力ある演奏が心に染み渡りました。



6

24 □ 6A

▲夏の大イベント、夏まつりです。ふれあいホールの真ん中にやぐらを組んで、今年多くのボランティアの方といっしょに入所者の方も踊りを楽しみました。



9

24 □ 9A

▲スポーツの秋。

ふれあいホールいっぱいの歓声の中、パン食い競争、ペットボトル倒し、玉入れと各組とも必死に頑張りました。



8

24 □ 8A

▲仲秋の名月。大須賀玉省寿さん他、昨年に引き続き南部中学校の皆さんにも来て頂きお琴の演奏を楽しみました。



11

24 □ 11A

▲ヨイショ!ヨイショ!の掛け声に振り上げる杵に思わず力が入りました。



10

24 □ 10A

▲幸田生活学校の皆さんと一緒にクリスマス会を楽しみました。皆さんのさわやかなコーラスがとてもすばらしかったです。

# 社会福祉法人和敬会 創立50周年記念特集

いよいよ社会福祉法人和敬会にとって記念すべき50周年を迎える新しい年が明けました。

半世紀に渡る長き年月には本当に多くの皆様からご支援・ご協力を賜り感謝の気持ちでいっぱいです。

そこで、シリーズで社会福祉法人和敬会と大変ゆかりのある方を訪ね歩き「和敬会とのつながり・思い出話」を語り継ぐ特集をご紹介していますが、第3回目は、社会福祉法人和敬会の常務理事としていつも陰日なたで八楽児童寮とまどかの郷を支えていただいている片桐昭雄常務理事を訪ねました。片桐昭雄常務理事は予め「五十周年を目撃にして」と題して回想録をしたためていただきましたので全文を掲載いたします。

## 「会いたくて…」

### 五十周年を目撃にして

片桐昭雄

中国の礼記に「喜壽を過ぎたら老伝」とあるが、まさしくその通りで、和敬会50年の「生字引」がおおかた世を去られた現在、数少ない「語り部」の一人として、和敬会の傳統を語り遺す使命を痛感するようになった。しかし、昔話は忘れ勝ちであり、しかも尾ひれがつき易くて、創作の領域が拡がってフイクションの誇りを招きかねない。そこで、本稿は明白な事実だけを断片的にとりあげて、あとは読者の想像力に委ねたいと思う。それからもうひとつ、かつて拝啓新聞(平成9年7月)拙文を掲せたので、なるべく重複しないようにしたい。

我が国が「國破れて山河あり」のころ、戦災孤児の姿に心を疼めた

五十周年を目撃にして  
片桐昭雄



太田英一氏（昭和27年10月逝去）は、不遇な子供達を救援したいといふ願いを長男の順一郎氏に託された。順一郎氏は慈父の遺志を遵守して、昭和28年、八楽児童寮を設立し、包括する法人の名称が和敬会と決まった。和敬の出典は、無量壽經下巻にある「修六和敬」という聖句から採ったので、和敬の読み方は「ワキヨウ」と呉音で読む。意味を簡潔にいうと「和顏愛語・先意承聞」であり、これが和敬会の理念となつた。

八楽児童寮が開設された頃の生活は、一日の食費が18円で、朝食にご飯と味噌汁に漬物、昼食にコッペパン二分の一を与えると、夕食の費用は無いという時間が続いた。これでは、生きていけないと順一郎寮長は途方に暮れ、私財の提供やら有志の支援を求めて奔走することになり、奥さんの松枝女史は実家へ赴いて度重なる無心を懇望された。こんなことを書くと、冥土のご両人が渋い顔をされると思うから、もう二度と書かないが、実情を知る者としては、一度は明言したかったのである。一方、窮屈に立ち向かう寮職員の献身的な努力は並大抵ではなかつた。豚を飼育して生計を扶け、ときには豚と寝起きを共にするなど、我武者羅に頑張つたと往時を偲ぶ声を聞くときは、唯た唯々頭がさがる。

初期の八楽児童寮では、子供達は大部屋で協同生活をしていた。当時は、屋根の下で雨露を凌ぐことができれば、附則は言えなかつた。社会全体が住宅不足に悩んで

いたからだ。そのようなとき

でさえ順一郎寮長は小舎制

の導入を熱心に説かれた。「施

設は収容所ではない。経済効率は問うべきではない」と力

説して、実験家族舎の名称で

小舎制の実現を貫徹することになつた。



そこで、順一郎寮長が先頭に立ち、全職員と子供達の総力を結集して、手造りのブロック小舎三棟を完成した。文字通り、汗と涙の結晶であつた。建設作業に豊川自衛隊の有志が支援されたことは、深い感銘のもと、今に語り継がれている。

順一郎理事長は、昭和45年11月に急逝、松枝女史が亡夫の跡を継がれた。松枝理事長は、老朽化した管理棟の改築をされたが、工事の途中でオイルショックが突発して、工事費の見直しを求められて悪戦苦闘することになった。寝食を忘れて事業に取り組む松枝理事長は、事務机に伏せて夜を明かす日が続き、周囲の心配は絶頂に達したが、執念は実つた。次に、明記したいことは、社会へ巢立つた子供達を気遣う姿勢である。多種多様な問題の相談を厭わず解決に奔走された。筆者は、屢々同行したので、松枝理事長の誠意と苦労が脳裡に焼きついている。「よくぞそこまで」が正直な心境であつた。理事長とか寮長と表現するよりも「お父さん、お母さん」がふさわしいと、しみじみ思うのである。

松枝理事長の最後の事業は、幸田町の特別養護老人ホーム「まどかの郷」の建設であるが、この事業は現理事長太田一平氏と「まどかの郷」施設長太田二郎氏の二人が詳細に承知されているから、記述は両氏に譲りたい。紙面が尽きたので脱稿する他はないが、結びとして、眞実の福祉を問い合わせられた太田順一郎・松枝夫婦の生涯を偲びながら筆を描くことにする。

2003年



## ご紹介

### まどか 職員の皆さん

- 【まどかの郷】  
10月分  
(有)杉山ボートリー  
日本たばこ産業  
愛三印刷(株)  
新城市更正保護婦人会  
新川君代  
フジ給食  
新杉屋  
宮本光芳  
藤原国愛  
黒田茂芳  
浜中徳美子  
内藤和夫  
幸田町民生委員  
幸田町民生委員会  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿原会  
中根勝子  
板廻しのぶ  
石川西理  
岡田祐美子  
美谷室花水木  
幸田生活学校  
岡崎さわやか健康体操  
大須賀玉省寿  
伊藤歩美  
幸田中学校  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風

- 【まどかの郷】  
11月  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風

- 【まどかの郷】  
11月  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風

ありがとうございました。  
ご協力いただいた方々にお礼を申し上げます。以下、寄付者とボランティアの方のお名前を記載いたします。

### ボランティアの方々

### 寄付者の方々/寄付金/寄付物品含む)

- 【まどかの郷】  
10月分  
(有)杉山ボートリー  
日本たばこ産業  
愛三印刷(株)  
新城市更正保護婦人会  
新川君代  
フジ給食  
新杉屋  
宮本光芳  
藤原国愛  
黒田茂芳  
浜中徳美子  
内藤和夫  
幸田町民生委員  
幸田町民生委員会  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿原会  
中根勝子  
板廻しのぶ  
石川西理  
岡田祐美子  
美谷室花水木  
幸田生活学校  
岡崎さわやか健康体操  
大須賀玉省寿  
伊藤歩美  
幸田中学校  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風

- 【まどかの郷】  
11月  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風  
椿の会  
椿の会  
浅井まり  
額田ビハーラ研究会  
バーバーショップ・マカコシ  
IPCO移動動物園  
深谷小学校  
幸田小学校  
幸田中学校  
神取美江  
黒江ひけ子  
鶴田光美  
神田たか子  
幸の風

### 八楽

#### 児童寮の皆さん

- 西山 未那さん(12歳)  
一重飛びがもつとよくなるようにがんばりたい。

- 山下 実幸さん(12歳)  
授業中じたくさん手を上げてたくさん発言できるように努力する。

### 八楽

#### 職員の皆さん

- 柳田 丹(24歳) 女(職員)  
風邪をひかず怪我をせず無事故無違反、元気をうつしました。

- 太田 一平(48歳) 施設長  
明るく主張、をモットーにがんばります。



今回の記事についてのご感想や新コーナーのご提案、近況報告など皆様からのお便りをお待ちしております。

FAXの場合

0536(22)0762

郵送の場合  
社会福祉法人 和敬会  
拝啓新聞編集室まで

### まどか

#### 入所者の皆さん

- 神尾三千代さん(60歳)
- 足立 としさん(84歳)
- 大谷 武友さん(84歳)
- 河野 亀子さん(84歳)
- 近藤 和子さん(84歳)
- 伊藤 はなさん(96歳)

- 小田 真弓子(24歳) 介護職員  
ひいじのようこのほほんとみんなをあつたかくでいる人になれるようがんばります。
- 石山 久美子(24歳) 介護職員  
羊に向かひ、今までよりもあたたかい介護ができるようがんばります。
- 桜木 晃子(36歳) 介護職員  
笑顔を忘れず、日々挑戦に勤めます。
- 太田 一郎(48歳) 施設長  
みなさんが「Good job!」(良くやれ) ように素晴らしいと聞いてもらいたいと思っています。
- 太田 美登里(48歳) 副施設長  
常に初心を忘れずに仕事に取り組みたい



郵送の場合

0536(22)0762

社会福祉法人 和敬会  
拝啓新聞編集室まで